

家畜衛生だより

- 監視伝染病発生状況
- 県内の家畜疾病発生状況
- 豚熱経口ワクチン野外散布の実施について
- アフリカ豚熱の侵入防止対策について
- 畜産研究センター・養鶏研究所の試験研究の取組み～遺伝資源保存のための豚凍結受精卵の活用について～
- がんばる愛媛の畜産
第 39 回四国連合乳牛共進会で県勢大活躍！
- 畜産経営における暑熱対策
～ファン清掃～
- 飼養衛生管理等支援システム講習会の開催について
- 家畜排せつ物管理方法等実態調査について
- 電源立地地域対策交付金を活用した機器整備

監視伝染病発生状況

○家畜伝染病発生状況 (令和 5 年 12 月～令和 6 年 3 月)

※農林水産省集計及び中四国各県からの報告による。

畜種	病名	発生場所	発生月	戸数	頭羽群数(患畜)	頭羽群数(疑似患畜)
鶏	高病原性鳥インフルエンザ	香川県	2	1	2	102,744

○届出伝染病発生状況 (令和 5 年 12 月～令和 6 年 3 月)

※農林水産省集計及び中四国各県からの報告による。

畜種	病名	発生場所	発生月	戸数	頭羽群数	発生場所	発生月	戸数	頭羽群数
牛	牛伝染性鼻気管炎	岡山県	12	1	5				
		鳥取県	12	2	2	島根県	12	2	2
	牛伝染性リンパ腫	岡山県	12	5	8	広島県	12	3	3
		山口県	12	2	5	徳島県	12	1	2
		香川県	1～3	8	12	愛媛県	2～3	2	2
サルモネラ症	岡山県	12	1	1					
豚	サルモネラ症	愛媛県	12～2	1	6				
	豚丹毒	徳島県	12	1	2	香川県	12～3	2	18
		愛媛県	2～3	2	6				
鶏	鶏伝染性気管支炎	徳島県	12	1	7	愛媛県	12	1	17
	伝染性ファブリキウス嚢病	鳥取県	12	1	32				
蜜蜂	アカリダニ症	鳥取県	12	1	2	岡山県	12	1	1
		広島県	12	2	2	山口県	12	1	1
		香川県	12	1	1	愛媛県	3	2	2

県内の家畜疾病発生状況

(令和 5 年 11 月末掲載分～令和 6 年 4 月)

【牛伝染性リンパ腫】 【届出伝染病】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
東予	1 月	乳用牛	31	1	1	体表リンパ節腫大
南予	3 月	乳用牛	61	1	1	貧血、血便、起立不能
	4 月	肉用牛	57	1	1	腹腔内腫瘍、骨盤腔内腫瘍
【対策】 ○農場内の定期検査と抗体陽性牛の隔離・早期更新 ○吸血昆虫対策 ○凍結や加熱処理を行った初乳の給与 ○牛舎周囲の除草及び消毒の徹底						

【牛コロナウイルス病】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
南予	11 月	肉用牛	1	1	1	水様性下痢
【対策】 ○畜舎消毒の徹底 ○発症牛の早期隔離 ○ストレスの軽減 ○ワクチン接種						

【牛ロタウイルス病】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
南予	1 月	肉用牛	0	1	1	下痢
【対策】 ○畜舎消毒の徹底 ○発症牛の早期隔離 ○初乳の確実な摂取 ○ワクチン接種						

【牛 RS ウイルス病及び牛マイコプラズマ肺炎】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
東予	1 月	肉用牛	5	1	1	発熱、呼吸器症状、沈鬱
【対策】 ○飼養環境の改善 ○早期発見・早期治療 ○ストレスの低減						

【牛パストツレラ（マンヘミア）症、牛 RS ウイルス病及び牛マイコプラズマ肺炎】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
東予	2 月	肉用牛	18	1	1	発熱、呼吸困難
【対策】 ○飼養環境の改善 ○早期発見・早期治療 ○ストレスの低減 ○有効薬剤の投与						

【牛マイコプラズマ肺炎】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
南予	2 月	肉用牛	1	1	1	呼吸器症状（発咳）
【対策】 ○畜舎消毒の徹底 ○異常牛の早期隔離 ○ストレスの低減 【参考事項】 マイコプラズマは、感染力が強く、農場内に常在する傾向があります。						

[牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症及び牛大腸菌症]

発生管内	発生日	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
中予	12月	乳用牛	43	1	1	血便
[対策] ○畜舎消毒の徹底 ○飼料の改善 ○飼養環境の改善 ○ワクチン接種 ○ストレスの低減						

[サルモネラ症（豚）] 【届出伝染病】

発生管内	発生日	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
東予	1月	豚	55	1	2	発熱、下痢、削瘦、元気消失
東予	2月	豚	98~129	1	3	下痢
[対策] ○飼養管理の改善 ○畜舎消毒の徹底 ○有効薬剤の投与						

[豚大腸菌症]

発生管内	発生日	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
東予	11月	豚	37	1	3	下痢、嘔吐、元気消失、食欲不振
[対策] ○畜舎消毒の徹底 ○ストレスの低減						

[豚レンサ球菌症]

発生管内	発生日	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
東予	1月	豚	110	1	1	呼吸器症状（軽度）
[対策] ○有効薬剤の投与 ○畜舎消毒の徹底 ○ストレスの低減						

[豚レンサ球菌症及び豚回虫症]

発生管内	発生日	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
東予	12月	豚	80	1	1	呼吸器症状
[対策] ○定期的な駆虫 ○畜舎洗浄・乾燥・消毒の徹底 ○ワクチン接種 ○ストレスの低減						

[アカリダニ症] 【届出伝染病】

発生管内	発生日	畜種	戸数	群数	主な症状
南予	3月	ニホンミツバチ	2	2	飛翔不能蜂の増加、死亡数の増加
[対策] ○巣箱の清掃や交換 ○巣板・蜂具の消毒の徹底					

豚熱経口ワクチン野外散布の実施について

本県を除く四国地域では、豚熱に感染した野生イノシシの確認事例が増加しており、令和 6 年 1 月に東予地域の一部が感染確認区域（確認地点から半径 10km 以内の区域）に設定されました。県では、国が示す散布指針に基づき、令和 5 年 2 月から、東予地域・中予地域（5 市 1 町）の島しょ部や山間部で、令和 5 年 10 月（令和 5 年度後期）からは南予地域へ拡大し、（一社）県猟友会の各支部及び民間団体と連携し、野生イノシシに対する経口ワクチンの野外散布を実施しています。今年度は、前期と後期に分けて、各期 2 回（計 4 回）散布します。

【散布計画時期・散布場所】

時期 前期散布：1 回目 5 月～、2 回目 6 月～
後期散布：1 回目 11 月～、2 回目 12 月～

散布場所 四国中央市、新居浜市、西条市、
今治市、上島町、松山市、
大洲市、八幡浜市、西予市



野生イノシシが経口ワクチンを摂食している様子（R6.1 月：松山市）

【経口ワクチンの安全性】

- ・経口ワクチンを食べたイノシシを人が食べても、人体に影響はありません。
- ・イノシシと豚にのみ感染するウイルスを使用しており、人や他の動物が病気にかかることはありません。
- ・経口ワクチンの成分と濃度は、環境に悪影響を与えません。

【野生イノシシへの誘引】

- ・圧ペントウモロコシや米ぬかなどワクチンを埋設した上に散布することで、野生イノシシが経口ワクチンを摂食しやすい工夫をしています。

アフリカ豚熱の侵入防止対策について

アフリカ豚熱は、平成 30 年 8 月に中国へ侵入後、アジアに広く拡大し、韓国釜山広域市では、令和 6 年 5 月現在も野生イノシシにおけるアフリカ豚熱感染が続いています。国内への侵入・まん延防止対策として、以下の取組を実施しています。

《国内への侵入防止対策》

○水際での摘発強化

- ・検疫探知犬の増頭及び活動回数の増加、携帯品検査における税関との連携強化、畜産物の持込罰則に対する注意喚起の強化、空港・港湾での靴底

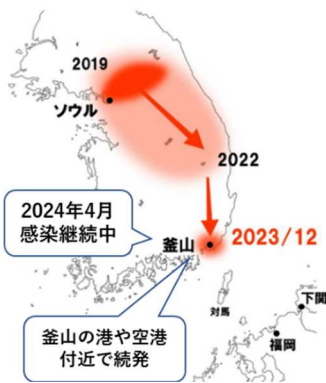
○広報活動

- ・海外からの観光客への周知（多言語ポスターによる注意喚起）、ゴルフ場における靴底土除去や消毒等を関係団体に協力依頼
- ・外国人技能実習生への周知

○野生動物サーベイランス実施（野生イノシシの捕獲強化）

- ・農場内の野生動物対策（柵の点検、周辺の草刈り、死亡家畜の適切な処理）、農場内や車の消毒、更衣・長靴の交換等を再点検し、引き続き衛生対策を徹底しましょう。

朝鮮半島におけるアフリカ豚熱の感染拡大



（図）農林水産省 HP 引用

畜産研究センター・養鶏研究所の試験研究の取組み ～遺伝資源保存のための豚凍結受精卵の活用について～

皆さんの凍結受精卵のイメージは、主に肉用牛や乳用牛の生産に用いられる技術ではないでしょうか。特に黒毛和種では、個体改良の促進や優良血統牛の増産につながることから、繁殖や一貫経営では凍結受精卵の採取や移植は一般的な技術になりつつあります。

一方、養豚分野では、牛とは異なり、豚熱等の防疫措置による殺処分によって、遺伝資源が消失することを回避する手段として研究が進められています。

畜産研究センターでは、「愛媛甘とろ豚」を生産する中ヨークシャー種（Y種）を保有し育種改良を行っていますが、Y種は全国的にも飼養頭数が少ない貴重な遺伝資源です。この遺伝資源を消失から守り、「愛媛甘とろ豚」の安定生産を維持するため、令和2～4年度に「愛媛甘とろ豚受精卵保存技術確立試験」により、Y種の凍結受精卵の作成と復元技術の確立に取り組んでいます。

【1】受精卵の採取試験

Y種雌15頭から延べ22回の採取を行い、276個の受精卵を回収（12.5個/回）、そのうち移植に適した発育ステージ受精卵は182個（約66%）となり、当センターが想定した60%を上回る結果となりました。これらの研究成果を基にY種凍結受精卵の作出保存を開始し、本年度内には保存復元に必要な個数を確保できる見込みです。



開腹手術による豚受精卵の採取

【2】受精卵の非外科移植試験

今回は衛生的な専用施設や獣医師を要する外科移植ではなく、生産現場で一般的に使用されている深部注入カテーテルによる2通りの非外科移植（①移植のみを行う方法②人工授精後に移植する追い移植法）を試みしました。①移植のみは受胎しませんでした。②追い移植法では移植した3頭のうち2頭が受胎し、それぞれから1頭の産子が誕生しました。産子誕生は非外科移植による復元の可能性を示すものですが、得られた産子数が少なく実用化には産子生産数を向上させる検討が必要だと考えています。



採取した豚受精卵



デュロック種人工授精産子（褐色）とY種移植産子（白色）

がんばる愛媛の畜産

第 39 回四国連合乳牛共進会で愛媛県勢大活躍！

令和 6 年 4 月 14 日に、四国 4 県の代表牛による乳牛品評会である「第 39 回四国連合乳牛共進会」が、西予市野村町の野村町畜産総合振興センターで開催されました。晴れ空のもと、四国各地から集まった優秀な乳牛が、月齢及び産歴の有無別に 11 部門で序列を競い合いました。

○グランドチャンピオン

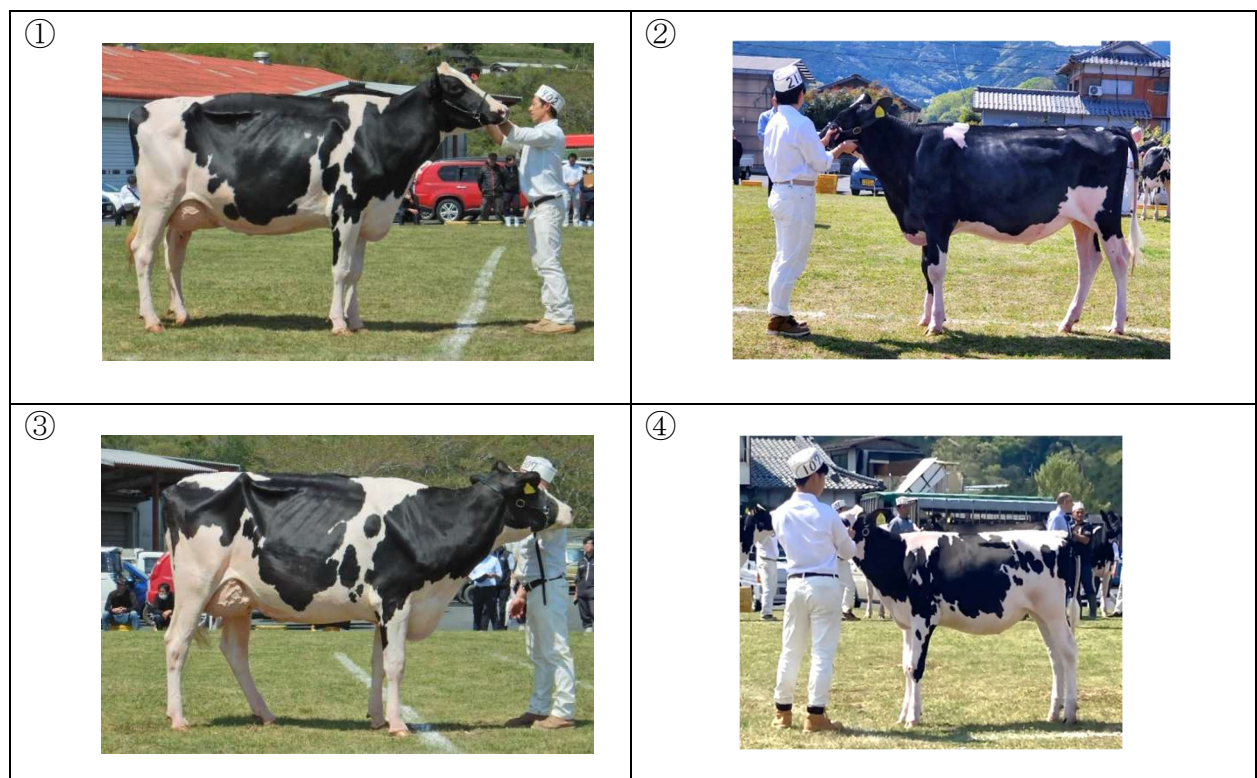
部門	名号	出品者		写真
経産牛	イナバメリツクラツシユシテイ号	西予市	稲葉ビレッジファーム	①
未經産牛	GHS リットカイトスパークイングシキ号	西予市	県立野村高校	②

○リザーブチャンピオン

部門	名号	出品者		写真
経産牛	ホワイトリバーヒンペルクイーンクラツシヤブル号	西予市	入船篤志	③
未經産牛	カンクンオバエジヤーリン号	西予市	那須秀樹	④

全 11 部門中 9 部門で本県勢が優等賞首席を獲得し、県別の総合得点において本県が団体優勝を飾るなど、酪農家の皆様の日頃の努力が実を結んだ素晴らしい結果となりました。

本県での開催は、コロナ禍を経て 7 年ぶりでしたが、県内外からの多数の来場者に向け、本県の乳牛改良成果を披露するとともに、会場では牛乳の無料配布や野村高校の生徒による花の苗の販売が行われるなど、大盛況のうちに幕を閉じました。



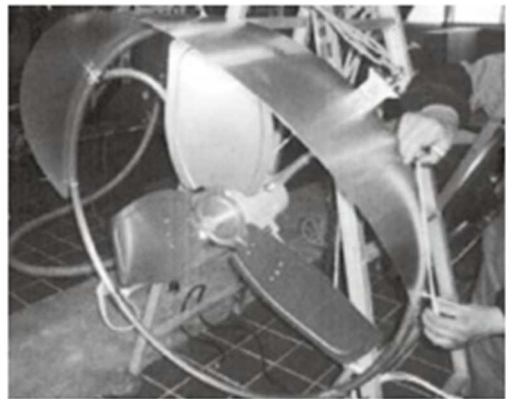
畜産経営における暑熱対策～ファン清掃～

じめじめした梅雨が終わると、本格的な夏が始まります。気象庁の予測では、今年の気温は平年より高いとされており、昨年のように早い時期から厳しい暑さになる可能性があります。

家畜は、暑熱ストレスを受けると体温や呼吸数が上昇し、食欲の減退や肥育成績・肉質の悪化、泌乳量及び乳質の低下、受胎率及び産卵率の低下なども発生し生産性に悪影響が生じます。今から暑熱対策をして、暑熱被害を最小限に抑えましょう。

暑熱対策は様々なものがありますが、コストをかけずにすぐに実践可能で送風の効果を高める対策として、畜舎に設置されているファン（換気扇・送風機）の清掃について紹介します。

ファンのプロペラにホコリがびっしり付着したり、裏側にあるフィルターが目詰まりしたり、ファンの近くに障害物を置いたりしていませんか？



このような状態だと、送風量の低下を招き、ファンの能力を最大限に活かすことができません。清掃によってプロペラのホコリを取り除き、フィルターの目詰まりを解消してください。夏本番が来る前にファンの清掃を一斉に済ませておくことをお勧めします。

ファン清掃の効果

- 機械の適正な性能が戻ることで、風速の改善により、効果的に畜舎の送風ができます
- 余分なホコリを落とすことでモーター負荷が小さくなり、電気代の節約になります

1月あたり約2.5万円の節約！

	清掃前	清掃後
風速	1.5～2.5 m/秒	2.5～3.3 m/秒
消費電力 ※ ¹	8.0 kwh	6.8 kwh
1日の電気代 ※ ²	5,760 円	4,896 円
1月の電気代 ※ ³	172,800 円	146,880 円

※¹：ファン12台を100%運転した場合

※²：ファン12台を24時間100%運転し、電気代を30円/kwhとした場合

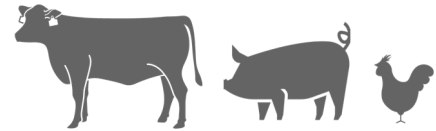
※³：ファン12台を24時間、30日間100%運転し、電気代を30円/kwhとした場合

【参考：2014.7.15 No.296 畜産会経営情報（一部改変）】

ファンの清掃以外の暑熱対策の例として、細霧システムの活用や遮光ネット、遮熱シーツの設置、密飼いの防止、十分量の冷たい水の給与、涼しい時間帯の給餌が挙げられます。工夫をして、家畜も飼養者も快適なすごしやすい環境を作り、この夏を乗り切りましょう。

飼養衛生管理等支援システム講習会の開催について

前回の家畜衛生だより（第 141 号）にて定期の報告等の手続きの電子化についてお知らせしましたが、国が開発するこれら手続きに係るシステム（飼養衛生管理支援システム）を効率的かつ最大限に活用していただくために講習会が開催されます。受講を希望される方は、管轄する家畜保健衛生所までお問い合わせください。



1. 講習内容等

- ・内 容: 共通申請サービスの基礎操作、申請書の作成・申請、構成員の登録業務等
- ・持ち物: 講習資料は当日配布されます。講習で使用するパソコンも当日、会場に用意してありますので、手ぶらで参加可能です。

2. 日時場所

ブロック	日にち	場所	対面	WEB	申込
中国 四国	7/23(火)	TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅(広島)	○ (人数制限)	○	7/9(火)
	7/30(火)	サンポートホール高松(香川)	○ (人数制限)	○	7/16(火)
東海	8/6(火)	TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋駅前(愛知)	/	○	7/24(水)
	8/20(火)	じゅうろくプラザ(岐阜)	/	○	7/31(水)
北陸	8/27(火)	nino3 貸会議室(新潟)	/	○	8/7(水)
	9/6(金)	TKP 金沢新幹線口会議室(石川)	/	○	8/14(水)
近畿	9/13(金)	TKP ガーデンシティ京都タワーホテル(京都)	/	○	8/21(水)
	9/20(金)	神戸国際会館(兵庫)	/	○	8/28(水)

- ・時間: 午前9時から正午まで

3. 受講注意点

- ・対面参加はハンズオン形式（※）で行われますが、原則自ブロックの会場のみ、かつ、25名の人数制限があるため、ご参加いただけない場合もあります。講習参加に必要な宿泊費、交通費は参加者負担となります。

（※）説明を聞きながら、実際にその場で本システムを体験していただく研修

- ・WEB (Microsoft Teams によるオンライン配信) での傍聴参加も可能です。ご自身のパソコンやスマートフォンでご視聴いただけますが、通信費等のご利用者負担となります。

家畜排せつ物管理方法等実態調査について

家畜排せつ物に関しては、みどりの食料システム戦略や食料安全保障強化政策大綱において、「堆肥の使用量倍増」「化学肥料の使用量低減」など堆肥関連の評価指標が設定されるとともに、政府のGHG（温室効果ガス）削減目標が設定され、家畜排せつ物の管理や堆肥の生産量等について、細かく把握することが必要となっています。

そこで、家畜排せつ物法に定める管理基準適用農家[※]及び公共牧場、学校、研究機関等を対象に、家畜排せつ物管理方法等実態調査を実施します。

本調査は国が5年ごとに実施しているものです。調査項目は家畜排せつ物の発生量と処理方法の詳細です。対象となる畜産農家の皆様については、家畜保健衛生所の環境巡回にあわせて聞き取りを実施する予定ですので、御協力をお願いします。

※管理基準適用農家とは、牛、馬10頭以上、豚100頭以上、鶏2,000羽以上を飼養する農家です。

電源立地地域対策交付金を活用した機器整備

令和5年度電源立地地域対策交付金を活用して以下の機器を整備しました。

整備機器	整備施設	目的
孵卵器	家畜病性鑑定所	鳥インフルエンザ及び豚熱を含む家畜の伝染性疾病の検査を迅速、正確に実施し、飼養管理指導を行うことによって、発生予防及びまん延防止並びに本県畜産農家の生産性向上を図ります。
超低温フリーザー		
サーマルサイクラー		
マイクロプレートリーダー		
マイクロプレートウォッシャー		
血液成分分析装置	畜産研究センター	繁殖基盤強化に資する受胎率の向上や飼料価格高騰に対する飼料費の低減、未利用資源の有効活用に向けた試験研究の分析体制の強化を図ります。
気象観測装置		

“ご相談、お問い合わせは、こちらへ”

愛媛県畜産課

Tel (089) 941-2111 Fax (089) 941-2574

東予家畜保健衛生所

Tel (0897) 57-9122 Fax (0897) 57-9155

東予家畜保健衛生所今治支所

Tel (0898) 22-0430 Fax (0898) 22-0438

中予家畜保健衛生所

Tel (089) 990-1333 Fax (089) 955-1234

南予家畜保健衛生所

Tel (0894) 22-0328 Fax (0894) 22-0343

南予家畜保健衛生所宇和島支所

Tel (0895) 22-1294 Fax (0895) 22-9316

家畜病性鑑定所

Tel (089) 990-1341 Fax (089) 955-1234

畜産研究センター

Tel (0894) 72-0064 Fax (0894) 72-0065

畜産研究センター養鶏研究所

Tel (0898) 66-5004 Fax (0898) 66-5093

畜産協会 BSE 検査死亡牛受付専用

携帯 Tel 080-3166-7222